

『日本食』が存在しない世界

帯広市立翔陽中学校 須田陽向 3年

ぼくは日本食が好きだ。なかでも寿司、梅干し、天ぷらとともに白米！炊きたてのご飯の香りが家中にただようと、ついおなかの音が鳴ってしまう。炊きたてのご飯の湯気や香りが、ぼくの毎日の元気の源だ。

でも最近、母はご飯をよそうたびに

「米の値段が高くて…」

と、つぶやくようになった。

なんと、米は昨年と比べて2倍の値段ではないか！一体どういうことだ？米農家の高齢化、所得制限、田んぼが干上がるような猛暑…。要因は一つではない。

米を含めた日本食が存在しない世界。ぼくは一体何を食べて生きていけば良いんだ？

ぼくはもともとパンはあまり好きではない。代表的な和食の一つである寿司も、ここ最近の異常気象も影響したためか、漁獲量も減少傾向だと聞く。この先、寿司のネタとして食べられなくなるかも。うどんやそばも悪くはないが、毎日食べると飽きてしまうだろう。やはりぼくにとっては米が一番だ。

背が小さく、体重も少ない細身なぼくはこれ以上食べるものがなくなったら、ガリガリにやせ細ってしまう。ぼくだけではない。日本中の子供たちが栄養失調になるのが目に浮かぶ。そんな未来は見たくない。

食料自給率が千三百%を超える『日本の食料基地』十勝に住むぼくは、なんて幸せなんだろう。いつも新鮮でみずみずしい野菜を食べることができる。乳製品や海産物も豊富だ。温暖化が進むにつれて、今まで本州で作っていた米や果物も北海道で盛んに作ることになるのだろうか。酪農では、牛の夏バテでの乳量減も心配だ。おいしい牛乳、シチューやアイスが食べられなくなってしまう。

日本の味がどんどん消えていく。そんな未来にはしたくない。外国の料理も悪くないが、脂っこいものや香辛料が苦手だ。それでも経験は大事なので、いつか海外に行き、地場産の料理も試してみたい。でも、やっぱり日本の味がぼくにとっての安心なんだ。その味を守るために、地元の食材を選ぶ地産地消を意識したり、食べ残しを減らすことでフードロスを防いだりすることは、ぼくにもできる日本の食を守る大切な一歩だと思う。

日本の味はぼくにとってとても大切。日本食が存在しない世界では、ぼくはきっと生きていけないだろう。これからも生産者や料理をしてくれた人に感謝の気持ちを忘れずに食べて、生きていこう。